

横濱港内國貿易用岸壁其他

内務省横濱土木 出 張 所 技 師 鮫 島 茂

横濱港擴張工事中の外國貿易備設即ち北水堤附近の岸壁其他に就ては既に本誌に紹介せられた處であるが、此邊は盤が堅かつたから岸壁には Caisson を又物揚場に對しては Buttress wall を使用する事を得た。

然るに内國貿易設備地である處の高島町、山内町邊は堅盤が水面下50米位に在つて、其上は粘土狀の Silt の厚い堆積より成り砂粒を混する事も尠い。恰も大阪港或は神戸港の兵庫に似たものである。

此内國貿易設備地に建設した主なる構造物は

岸壁 長 402米 水深 8米 6,000噸船3隻用
 棧 橋 145×39米 水深 8米 6,000噸船2隻用
 棧 橋 135×25米 水深7.3米 4,000噸船2隻用
 物揚場 延長 774米 水深2米 舢舨用

此等構造物の計畫に就ては地質、耐久、耐震、工費の四點を考慮して、結局基礎は總て長い杭打とし壁體は自重が軽く而かも土壓地震壓の如き水平効力に對し抵抗し得る様に別圖の如き設計を作つた。岸壁の外形は Cylinder type であるが、構造の主意及施工法に於て Caisson の idea を加味した本港特殊の様式である。多少特異と思ふのは次の諸點である。

